

## 消防団の現状と課題

赤羽消防団 団本部分団長 小澤浩子

### 1・災害列島・日本 ～世界との比較～ (内閣府作成の資料より)

- 1) 活火山数・・・・・・・・・・・・・・・・・・7・0% (気象庁の資料をもとに)
- 2) マグニチュード6・0以上の地震・・20・7% (1996年から2005年の合計)
- 3) 災害死者数・・・・・・・・・・・・・・・・10・3% (1975年から2004年の合計)
- 4) 災害被害額・・・・・・・・・・・・・・・・13・4% (1975年から2004年の合計)

### 2・消防団とは

- \* 特別職の非常勤地方公務員
- \* 生業を持ちながら「自らの地域は自らで守る」との郷土愛護の精神で  
消防活動を行う
- \* ほとんど全ての市町村に設置
- \* 団員の任命権は市町村長が持つ・定数は市町村条例による
- \* 出動手当て・年報酬・退職報奨金有り
- \* 消防団の組織は団本部を頂点とし、団員の階級は団長以下7階級
- \* 入団動機も変化してきている
- \* 常備消防と自主防災組織の連携役であり、地域防災の中核的存在とされる

### 3・地域の防災体制

- 1) 常備消防・・・・・・・・・・約15万7千人 (常備化率 97・8%)
- 2) 消防団・・・・・・・・・・約89万人
- 3) 自主防災組織・・・・・・・・約3,100万人
- 4) 女性防火クラブ・・・・約200万人

### 4・消防団のルーツ

- 1) 「まち火消し」の伝統 ～長い「男の世界」～
- 2) 自治体消防の誕生
  - \* 昭和22年4月・・警防団の廃止
  - \* 昭和23年3月・・消防組織法の施行

### 3) 女性団員のルーツ

- \* 女性しかいないなら・・・明治のころから、離島、漁村等で発足
- \* 女性もご一緒に・・・町・自治会の婦人部員らが入団
- \* 女性ならではの活動に期待・・・消防団活性化も目的として
- \* 女性も、男性も共にまちを守る・・・男女共同参画社会の構築

## 5・消防団の特性

- 1) 地域密着性
- 2) 要員動員力
- 3) 即時対応力

## 6・消防団の現況 (平成20年4月1日現在の速報値・消防庁防災課)

- 1) 消防団数・・・2380団(平成の大合併により、大幅に減少)
- 2) 消防分団数・・・23,057分団
- 3) 全国消防団員数・・・888,884人(前年度より4,009人減少)
- 4) 女性消防団員数・・・16,707人(前年度より1,205人増加)
- 5) 総務省消防庁の目標・・・全国で100万人確保(内10万人は女性団員)

## 7・消防団への期待の拡大

- 1) 大規模災害への対応
- 2) 有事における国民保護への対応

## 8・消防団が抱える課題

- 1) 団員数の減少・・・平成17年をピークに対前年減少人数は小さく
- 2) サラリーマン団員の増加・・・団員比率69・3%
- 3) 団員の高齢化
- 4) 地域住民の理解不足・協力の低下

## 9・消防団の活動 ～まちの数だけ活動がある～

- 1) 災害時
  - \* 消火活動

- \* 救出救助活動
- \* 水防活動
- \* 避難誘導
- \* 情報の収集と伝達
- \* 搜索活動 など

## 2) 災害復旧時

- \* 災害後の住民へのさまざまな支援活動 など

## 3) 平常時

- \* 各種訓練や研修会への参加
- \* 応急救護法の普及
- \* 住民や子どもたちへの防火防災指導・啓発活動
- \* さまざまな予防啓発活動
- \* 地域の祭りなど、各種行事での警戒など
- \* 高齢者宅訪問
- \* 災害弱者の情報収集
- \* 地域の防災マップ作り など

## 10・団員確保のためのさまざまな方策

- 1) 消防団員入団促進全国キャンペーンの実施
- 2) 機能別分団・機能別団員の設定
- 3) 団員OBの活用
- 4) 学生や女性の採用拡大
- 5) 公務員や、特殊法人等公務員に準ずる職員等の入団促進
- 6) 消防団協力事業所の表示制度の実施等、事業所との協力体制の推進
- 7) 消防団応援団の設置
- 8) 消防団員確保アドバイザー派遣制度 など

## 11・これからの消防団

- 1) 実践に即した、新しい訓練や活動の確立
- 2) 家族や地域の理解と協力の獲得
- 3) 消防団であることの誇りと信頼
- 4) まちのさまざまな人や組織をつなぐ核としての活動
- 5) まちと共に生き、まちと共に育つ存在